

## 平成24年度地域のしくみづくり検討・検証委員会第2回会議録

- 日 時 平成25年2月21日(木) 13時30分～15時45分
- 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 出席委員 副委員長 関谷 昇 委員 松川 正  
委員 文入加代子 委員 恩田 忠治  
委員 井上 一 委員 荒 久美子  
委員 岩橋 秀高 委員 榎本 孝芳  
委員 河野 静雄
- 傍 聴 人 2名
- 事 務 局 市民担当部長 小沢 邦昭 市民担当部審議監 小菅 恒夫  
地域振興課長 佐藤 充宏 協働推進課長 林 孝哉  
地域振興課 関 聡 地域振興課 天野 武彦
- 議 題 (1) 平成25年度モデル試行事業の検討について

### (配布資料)

- ①地域の仕組みづくり検討報告書(案)
- ②パンフレット(案)

### ○ 会議経過及び概要

#### 1 開 会

##### (事務局)

只今から、平成24年度地域のしくみづくり検討・検証委員会の第2回会議を始める。本日、日高委員長が所要により欠席である。

##### (副委員長挨拶)

日高委員長が欠席でありますので私からご挨拶申し上げます。第2回の会議ということで、地域のしくみをどのように制度設計をして具体的なモデル事業に結びつけていけるか、これは今後の地域のあり方を考えるのに非常に大事な契機になるところで、それぞれどのような地域にしていきたいのか、あるいはどこに課題があってそれを少しでも克服していけるのか、このモデル事業を通じてどのような可能性が切り開かれるかどうか、いろいろとイメージされているところもおありかと思っておりますので、イメージを膨らませながら、どのようにこの計画をスタ

一トさせていければ良いか、是非議論を引き続きお願いできればと思います。本日は委員長が不在ですので、私が議事を進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

**(副委員長)**

- ・平成24年度地域のしくみづくり検討・検証委員会の第2回会議を始める。「会議の成立」について、事務局から報告を求める。

**(事務局)**

- ・委員会設置要綱第5条の規定により、過半数の委員が出席しているので、会議は成立している。

**(副委員長)**

- ・傍聴者の状況について、事務局から報告を求める。

**(事務局)**

- ・本日の傍聴者の状況ですが、2名の方から傍聴したいとの希望がある。傍聴者の入場について委員会の承認を願う。

**(副委員長)**

- ・2名の方から傍聴したいとの希望があるが、傍聴者の入場について、よろしいか。

**(異議なしの声あり)**

**(副委員長)**

- ・入場を認める。

**ー傍聴者入場ー**

**2 議題**

**平成25年度モデル試行事業の検討について**

**(副委員長)**

- ・それでは、会議次第に沿って、議事を進めさせていただく。議題の平成25年度モデル試行

事業の検討について、事務局の説明を求める。

### (事務局)

- ・「平成25年度モデル試行事業の検討について」説明する。(以下、説明資料の項目)

## 松戸版地域の仕組みについて

(地域の仕組みづくり検討報告書(案) P11～P17)

### Ⅲ 松戸版地域の仕組みの提案(平成25年度モデル試行事業)

#### 1 仕組みの概要

(1) 地区割りの設定

(2) コミュニティ推進協議会の設立

##### ①委員構成

ア参加必須団体

イ参加団体

##### ②協議会の役割

ア. 地域づくり構想の策定

イ. 市との話し合いの場「地域づくり協働会議」への参加

ウ. 地域コミュニティ活動助成事業の審査・副申

エ. 地区事務局メンバーの選任

(3) 地域づくり交流会の開催

##### ①地域づくり講座の開催

##### ②地域広報活動の実施

##### ③成果報告会・交流イベントの開催

(4) 地区の事務局体制の整備

(5) 市が取り組むこと

##### ①地域コミュニティ活動助成金の交付

##### ②協議会との話し合いの場「地域づくり協働会議」の開催

##### ③推進体制の整備

ア. 地域のしくみづくり検討・検証委員会

イ. 地域自治推進会議

ウ. モデル試行事業の事務局及び地区担当チーム

#### 2 実施手順・スケジュール

(1) モデル地区の決定

## (2) コミュニティ推進協議会の設立

### 1 モデル試行事業に期待する効果について

(自分たちのまちは 自分たちでつくる 元気な街をめざして)

#### 最終報告書「地域の仕組みづくり検討報告書」について

##### (副委員長)

- ・事務局からの説明について質問、意見はあるか。

##### (委員)

- ・参加団体の最後の部分を様々な分野から参加を募るものとし、そのための支援を市は積極的に行うものとしします。という文言に変更となりありがたい。

##### (事務局)

- ・委員の意見を取り入れ、積極的に努力させていただくこととした。

##### (委員)

- ・積極的に支援を行うとは、具体的にどのようなことを考えているのか。

##### (事務局)

- ・地域のボランティアグループやNPOの活動が、発起団体に見えていないものもあると思われることから、リストや活動状況について、市が持っている情報を提供する。
- ・全体として、公募の5名についても団体推薦の枠から漏れてしまう方々を救済する道として、15名の中でもバランスがとれているかどうかを含め、市も一緒に支援していきたいと考える。

##### (副委員長)

- ・参加必須団体と参加団体については、今説明があったような形でバランスをとっていくとのこと。他に意見等あるか。

##### (委員)

- ・根幹を成す必須4団体には十分な説明をしなければならない。

### **(事務局)**

- ・15ページ①に記載のとおり、市は、事前に発起団体を対象に説明会を開催し、意向を確認します。とあるようにこの必須4団体の理解と協力が無くてはその地区でモデルを行うことは出来ない。説明会については、4団体ばらばらで実施するのではなく、地区の実状を踏まえながら、地区ごとに丁寧な説明を実施していきたい。

### **(副委員長)**

- ・社会福祉協議会や各団体は会費制や寄付などいろいろな形でそれぞれ活動している。それらの団体だけでは漏れ落ちてしまう部分を違う手立てで補完していくなどの取り組みが出来るかどうか問われている。漏れや課題や補完や支援、連携のあり方を丁寧にあぶり出すことが大事になってくる。
- ・16ページ17ページのスケジュールを見ると、準備会をそれぞれ地域で設置し、これらの団体を中心に協議会の設立までもっていく形になっている。4月から6月頃までに体制を固めていくことになっているが、この時間のとり方について感覚的にどうか。
- ・他の自治体においては、丁寧に行っているところはうまくいっているが、急ぎ過ぎたところは失敗している。これは如実に出ている。皆さんのそれぞれの立場からどのような進め方が良いのか意見をいただきたい。
- ・地域の浸透を目指すには、市の職員個人だけではなく、各方面の人員を総動員してやってくつもりでやらないと地域の浸透は難しい。香取市で制度設計した時には徹底してやってもらった。制度設計の段階で、市民活動部門と総務部門などにも入ってもらって制度設計を練り、地域の各団体、各立場の方々への説明も担当職員総動員で一点を何度も繰り返し説明に行き、少しずつ合意を得ていた。そういう部分も念頭に置いていかないと理解され難い。
- ・この効果をねらうには、それぞれの立場の方々が、この仕組みを使うと、このようなことが出来る等のイメージを持ってもらうようにしないと、この仕組みはなかなかうまく進んで行かない。そのことを念頭に置きながら、意見を伺いたい。

### **(委員)**

- ・現実的なことも地域によって違うとは思いますが、大事なことだと思う。この会議のメンバーは、必須団体の方々が集まっているので、それぞれの立場としての意見等が出せることから、疑問点はここで徹底的に話し合うことが大事である。

- ・このスケジュールで良いのか疑問である。具体的な進捗やそれに対する人選や成り立ち等が推測されるようなスケジュールを作成すべき。
- ・いろいろな課題が出てきた場合に、委員会のメンバーが分からないようなことがあってはならないし、他の市民等に説明は出来ないのはよくない。疑問点があったら全て出して議論すべきである。
- ・13ページの(3)に協議会から選ばれた運営委員及び地区の事務局メンバー、(4)の住民をメンバーとする地区事務局との共同体制と記載されているが、地区事務局のメンバーはどの時点で募集するのか。4月1日から始動したとしても、かなりの時間を要すると思われる。4月から住民代表の事務局のメンバーを拘束することになり、協議会そのものの成り立ちなども含めて準備しないとイケない。

### **(事務局)**

- ・何故準備会議の中で事務局メンバーを決めてもらうかという、コミュニティ推進協議会で決めてもらうと遅くなるからである。広報作成や会議の運営などの時間がとれるように、準備会議で目星を付け、モデルに応募してもらう時に事務局委員も揃っているという状態になっていれば、現実的には事務局委員の方々と下話が出来ていくので、5月中にはスタート出来ると思われる。
- ・ここに提示したスケジュールは理想論であり、地区によっては準備会議がコミュニティ推進協議会の設立までに時間を要する地区もあると思われるし、設立まで至らないケースも考えられる。地区ごとに無理なく進めてもらいたいし、スケジュールありきではない。
- ・初年度では、地域づくり交流会が短期間になることも考えられるし、助成金提案事業もうまく行かない可能性もあるが、地域づくり協働会議だけは秋に開催することも可能であり、いろいろなバリエーションがあると思う。地域の仕組みづくりを何故モデル試行から始めたか、また地区ごとに実施しようとしたかは、地区ごとに使える仕組みにカスタマイズできることを想定しているためである。市で標準のひな型は示したが、地区ごとに仕組みを使いやすいような運営や地区の実情に合わせて、地区でのスピードで行っていくことが大事である。広報の発行についても、各地区で無理に3回行わなくても1回でも2回でも良いと考える。

### **(委員)**

- ・モデルを実施しようとする地区の各団体のメンバーにも任期があることなので、人事についても念頭に置いておく必要がある。

**(事務局)**

- ・それは各地区と話し合っていきたい。

**(委員)**

- ・ひとつの団体の中には、モデル事業に賛成する人もいれば、反対する人もいる。そのようなことから足固めしていくには職員の相当な努力が必要である。

**(副委員長)**

- ・15ページに記載のあるモデル地区の決定のプロセスについてですが、準備会を地区の発起団体がモデル地区応募のための準備会議開催を合意しますとあるが、4月に入ってすぐに始めていくのか、地区の方々とラフな形で事前に話し合ってから4月に臨んでいくのか、伺いたい。

**(事務局)**

- ・議会で予算が承認されないと動けないが、地区の方々と事前に話し合ってから行いたい。

**(委員)**

- ・市からモデル地区になってくださいとなげかけるものではないことを踏まえて必須4団体と準備の段階で合意が得られた地区に手をあげてもらいスタートするものだと思うので、いきなりモデルに手を上げてもらうわけではない。

**(委員)**

- ・地区でまとまって話し合っ合意が得られず、モデル地区が出てこなかったらどうするのか。

**(委員)**

- ・モデル地区として手を上げていただけそうな地区があるのであれば、その把握に努めていただきたい。

**(委員)**

- ・馬橋地区では、社会福祉協議会や民生委員には、かなり活動していただいている。民生委員は仕事の内容が多く、町会としても支援している状況であるので、必須4団体である民生委員の方には、市から懇切丁寧に説明していただければ、繋がりがとりやすいと思う。

- ・馬橋地区では、モデル地区として町会や市政協力委員には良い感触があるが、民生委員からは、余計な仕事を持って来ないでいただきたいと釘を刺されているので、話し合いの中で方向性を示していただくような働きかけをお願いしたい。

#### **(委員)**

- ・活動の活発な地域や事業に真剣に取り組んでいる地域は、精一杯取り組んでいる。また新たなことをやらなければならない負担感がある。

#### **(副委員長)**

- ・現状で精一杯取り組んでいる中で、更に横との繋がりを作ろうということは、屋上屋を架すことではないかというような批判が出ると思う。他の自治体等の導入等の状況を見てもこういう批判は非常に強い。この仕組みによって、単に負担が増えるだけなら見向きもせずやらないが、現状の負担が減る又はプラスアルファがあるというイメージを持ってもらうように働きかけを十分にしていかないと、通り一遍等の説明だけでは、負担が増えるだけと思われるのが実情であると、確認しておく必要がある。

#### **(委員)**

- ・会を開いたから、組織を作ったから、やらなければならないということでは意味が無い。先程の発言にもありましたが、市政協力委員は今年の3月31日で任期が満了となり、かなりの数の市政協力委員が変更となり、地区、地区長の考え方がどのようになるのか分からない中で、4月から準備会をスタートさせるのは困難ではないかと思う。
- ・12ページの参加必須団体の4団体が核になってということだが、市政協力委員の多くが社会福祉協議会にも参加しているので、この準備会を作ると第2の社会福祉協議会だと思われるので、方向性をしっかりと出していかなくてはならない。
- ・また、実施計画の中で、初年度は3地区で、その後順次作っていくということだと、長期的に見ると出来ない地区も出てくる。実際に失敗した松戸市の例があり3つ作ったがその先は進んでいない、このようなことがまた起こってしまう可能性がある。

#### **(委員)**

- ・12ページの地区事務局について、会議やまちづくり交流会・付帯事業の運営に参画する事務局メンバーを地区の住民より選任します、と記載されている。一地区の事務局は結構な仕事量であり、行政の方も関わって共同でやっていく形にはなっているが、集まってくる方々



は団体の代表やいろいろと取り組んでいる方々が多く忙しいと思う。そのような方々はその仕事と別にそれに専任できるような方を選ぶイメージなのか。

- ・ 13ページの(4)に、その経費として市は負担金を交付しますと記載があるが、いろいろと諸経費がかかるからだとは思いますが、事務局の負担が非常に重いと思う。事務局を回すことがなかなかうまくいかないことで失敗しているのが現状だと思う。選んだ方々以外に専従の事務局の人を募集するのか、それとも各団体の推薦の人を置くのか、地区によって違うと思うが、そのイメージはどういうものなのか。

### **(事務局)**

- ・ 事務局のメンバーは、協議会の委員でもなければ、他の団体で多忙な人では無理である。広報作成などが出来る人を募集する。ある地区では事務が出来る人が5名程度いるという回答もある。
- ・ 専従の事務ではない。

### **(委員)**

- ・ 広報だけではなく、事務局は行政の方もやるということなので、実際には行政の方がかなりの部分を担っていきながら、市民の方の事務局をサポートしていくというイメージだと思っている。
- ・ 事務局の負担金を事務の選任のために、残して置ける体制であれば成立すると思う。他の自治体で事務局に関してお金の部分や扱いについて、うまくいっている事例があるならば伺いたい。

### **(副委員長)**

- ・ 事例としてはいろいろなパターンがある。自治会・町会の連合会で中心にやっている方が、自分が束ねないと纏まらないからやっているというケースもあれば、全ての地域を同じにする必要はないので、この地域は社会福祉協議会に熱心な人が多いので、その方々を中心に事務局を構成しているところもある。どの団体でも手が回らないところでは、どの団体にも属していない方を専従の形で選ぶ。ただ、事情が分かっていない方だと事務局を果たせない。むしろ、事務局を担う方はお金をどうするかも大事であるが、既存の4団体やボランティア、NPOの方々との架橋の役割、調整、連絡、意思伝達が出来るといえないと担いきれないというイメージを持っている。うまくいっているところは、どの団体にも属していない一般の方から選ばれていても、各方面と話ができるような方が選ばれているところはうまく行ってい

る。また、学校の先生が熱心なところもあり、学校の中に事務局を置いて各方面の橋渡しをしているところもある。このようにいろいろなパターンがあり得るので、モデル事業の中でこういう事務局体制がある、こういう事務局体制を作れますという成功例を作っていけば、他の地域の方々もそれに習って事務局を作っていける。そういう意味では、地域の実情と文脈の中でどういう方を選ぶのが相応しいのか、地域ベースで考えていただきたい。

### **(事務局)**

- ・市との役割分担も、事務局メンバーの係わり方や負荷によって地区ごとに違うと思うので、市はそれを覚悟してやらないとうまくいかない。

### **(委員)**

- ・市が協力体制を作り、事務局やコンサルタントを入れて支援する形であるが、住民側の事務局が受動的になってしまっただけでは、共同体制にならないのではないかと心配がある、良い人材、日々いろいろな活動に携わっている人、地域に明るい人が望ましいが、市と対等に渡り合える人が住民側の事務局にいることが望ましい。

### **(副委員長)**

- ・人を選ぶ上でうまくいっているところは、職員の地域への関わり方が密になっている。香取市で制度設計を行った時は、地域で何かある場合には、市の職員がその地域の会議等に出て事務局のサポートをするという地区担当職員制度を設け、地域の事務局の職務と市の職務とを兼任する方法をとった。香取市では自己推薦として市の職員に呼びかけたら150～160人位が手を挙げた。制度設計を浸透させて各方面手順を踏みながら、地区担当職員制度の役割を果たすとモチベーションのあがる仕掛けをした。
- ・地域出身の職員や地域の事情に明るい職員を地域に宛がい、住民の方々とのコミュニケーションを豊かにする。基本的には、地域住民が事務局を担い、サポート・連携体制を担当職員が一緒に行っていければ、地域と行政の流れが透明化される。そこで、サポート体制があるかどうか重要となり、サポート体制を充実させていないところは、住民だけだとやりきれないのでトーンダウンしていくが、充実させているところは、最初は行政が多くを負担することになるが、徐々に地域の住民の方々だけで出来るようになっていく。

### **(委員)**

- ・市内に居住する市の職員が退職した場合、町会の役員になれば、市役所との連携もスムーズ

に出来る。

### **(事務局)**

- ・地区担当職員制度は是非チャレンジしたい。職員が仕事をする上で地区に目を向けることは、研修効果もある。地区担当職員を地区担当チームの中に何名か置きたいと思う。内部的には抵抗もあることなので、今後努力していきたい。

### **(副委員長)**

- ・地区担当職員がどのように導入出来るかは、内部の組織問題もあるのでスムーズにはいかないと思うが、研修を兼ねながら、職員が地域に入っていく部分を拓げていかないと協働のまちづくりにならない。
- ・退職者については非常に大事であり、退職者が地域に入っているところはうまくいっている。退職者は行政との架橋の役割や住民に対するアドバイスが出来ることから、市職員のOBを活用することは本気で考えて良いと思う。

### **(委員)**

- ・現状としては、退職者で町会のことを行っている方もいれば、職員でもボランティア活動を行っている方もいる。

### **(委員)**

- ・4月1日から新しい市政協力委員が2年間の期間限定で委嘱を受けるが、そうすると地域の仕組みが見えてくるので、どのような方が町会長や地区長になるのかによっては、考え方等が違うので、新しい地区長等が決まるまで待って、決まった後で改めて話した方が良いと思う。第1回推進協議会までに下準備を充分に行わないとうまく行かない。また、モデル地区にあたったところは一生懸命やって欲しい。

### **(事務局)**

- ・初年度は、各地区長の切り替えの時期であるから15地区横並びで行うのは難しいと思っている。

### **(委員)**

- ・モデル地区の地区長が変更になった場合は、前地区長の意向を踏まえて引き受けるようにす

べき。

#### **(事務局)**

- ・組織としての継続はお願いしたい。

#### **(副委員長)**

- ・どのように話を持っていくかについては、新年度に入ってからでは遅いという部分もある。これまでの継続性の部分と地区長等が変更になった場合などによって変わることもあり得ることなので、事前に情報提供と働きかけをしながら、地域によっていろいろな反応、積極性、消極性などがあると思うので、それを踏まえながら、地域との準備会を立ち上げるまでのプロセスを重視していただきたいと思う。
- ・次の議題は、地域住民の方々にどのように発信していくのか、という中身を確認したいと思うが、11ページからスケジュールまでを含めてこの範囲で確認したいこと等はありませんか。無ければ次の議題に入りますが、内容的には良いか。

#### **(特になし、の声)**

## **2 モデル試行事業に期待する効果について**

#### **(副委員長)**

- ・それでは、これを踏まえた上で、微修正等は次回までに加えることとして、地域への説明の仕方を丁寧に行わないとモデル事業であっても大変である。やり方や成果等を、他の地域の方々に見てもらうためにもモデル事業を行うわけですが、モデル事業を進めて行くにあたって地域の方々にどのようにこの事業のあり方、制度の仕組みのあり方を説明するのかを、「自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街をめざして」という荒委員の案を含めて見ていただきたいと思う。
- ・事務局の説明を求める。

#### **(事務局)**

- ・「2 モデル試行事業に期待する効果について」説明する。(以下、説明資料の項目)

### **自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街をめざして**

- ① 1、2ページ 松戸版地域の仕組みのイメージ
- ② 3、4ページは、疑問形タイトル

(地域の現状は？悩みや問題もあるよね？何が必要でしょうか？)

### ③松戸版地域の仕組みモデル試行事業

- ・提案いただいた荒委員の主旨と合っているかどうかを伺いたい。

#### (委員)

- ・これを誰に配布するのかということ考えた。必須参加団体に配布するのではなく、3ページに記載のある団体を知らない方、地域の情報や広報なども無い方、地域のために何かをやることの意味が分からない方等に配布することを想定した場合には、何が必要かということ。
- ・たとえば町会の加入率が50%位だとしたら、その町会等に参加していない方々に声が届くように、新しいことが出来ましたと強くアピール出来るパンフレットであれば良いと考え、何かが始まるということを知らせるような表紙としている。
- ・自分も参加出来ることによって自分にも良いことがあるということ、1、2ページ目に記載した。
- ・変わるということに対しては、しっかりと活動している方々にとっては、かなりの抵抗があると思う。名古屋の例で「地域の困りごと、地域をよりよくすること、地域のことをみんなで考え、みんなで議論する。地域委員会はそんな取り組みです。」とあり、この表現が良いと思った。

#### (事務局)

- ・事務局で荒委員の提案の主旨を理解しないで案として作成してしまった。

#### (委員)

- ・提出しただけで、特に主旨等の説明はしていないので仕方ない。

#### (委員)

- ・文字だけでは人々には届かないので、CDを作成して映像として、町会や管理組合などに配布すれ方法もある。地域の仕組みで松戸はこうなるということをPRすることが出来る。

#### (事務局)

- ・映像でのPRは効果的であると考え。しかし、このパンフレットの使い途は、議員への説明と、地区ごとの発起団体となる必須4団体への説明であり、モデル地区に手を上げていた

だくかどうかの判断をしてもらうためのものである。

- ・ 3つのモデル地区が決定した時に地区の皆さんに何をどう知らせるかが、地区広報の第1号の創刊号になる。そこは、協議会に傍聴に来てくれるとか地域づくり講座に来てくれる等の地域づくり交流会は参加者がいないと意味が無い。

### **(委員)**

- ・ この事業を進めていくにあたって、初年度は3地区をモデル地区にすることになるが、全地区を行うまでにあまり長期間にならないようにすべきである。短期間で行わないとやらない地区が出る恐れがあり、最初の理念から外れていってしまう。

### **(副委員長)**

- ・ 荒委員の案の図で、真ん中に一つは地域の団体の協力とあり、市政協力委員、自治会・町会の方等いろいろな団体の方々が出て、その方々にどのように仕組みを浸透させていくのか、どのように協力関係を作っていくのか、団体活動を行っている方々に向けての情報発信がまず一つある。それだけではいけない、地域みんなが参加ということで、どの団体にも属していない、団体活動を行っているわけではないが、松戸に住んでいていろいろな考えや思いがあり、いろいろな苦勞をしているような方々への情報発信でもなければいけない。団体という視点と、どこの団体活動も行っていない一般の方々への発信、行政との関係の3つが必要になってくる。
- ・ いろいろなことを動かしていくには、4団体をはじめとした団体の方々がどのように連携・協力してくれるのかという部分に重点を置いて行っていくことが必要になってくるが、この仕組みのポイントは、団体の連携だけではなく、団体活動には参加したくないが、地域には協力したいという方も含まれる。団体活動だと、総会や定期的な会合に出席しないと行けないとなると、ライフスタイルに合わないために参加する入り口が無くなってしまうため、団体活動には参加出来ないとなるが、その人達を非協力的と言ったらそこで終わってしまう。団体活動や定期的な役割・責務は出来ないが、何らかのイベント等には参加するとか、団体活動は行っていないが、活動の場において、広報の技術や知識等、自分の得意なことを提供するという参加の仕方もある。参加への入り口を作ってあげることが大事である。
- ・ 目線に合う情報を記載しないと心に響かない。資料の3、4ページの内容では抽象的すぎるので、町会・自治会活動を行っている方々に響く問いかけにしないと、見ただけで他人事のように終わってしまう。
- ・ パンフレットを見る側にとってイメージが膨らむのがよい、イメージが膨らめば、やる気を

出してくれる方も出てくるのではないかと思います。

### **(委員)**

- ・地域 みんなが参加することが大事だと思う。町会活動に何らかの形で参加したい、定年後に地域に貢献したいなど考える人がいると思うが、活動できるような受け皿がなく、町会も受け入れていないというのが現状だと思う。また、市の職員も町会に携わるということも難しいのではないかと思います。地域の人材となる方々を掘り出していく、吸い上げていく良い例があれば教えてもらいたい。

### **(副委員長)**

- ・人材発掘については皆さん悩んでいる。特に、活動している側からすると担い手を増やしたいと思うが、募集や働きかけをしてもなかなか積極的に一緒にやってもらえないという悩みがある。客観的に見ると、団塊世代をはじめ退職された方々が地域に戻ってきている。その方々に話を聞くと地域に入り口が見えない。
- ・町会・自治会が門扉を広げて、役員会等で活躍するという形ではなくても、協力してもらえらること等を一緒にやってみませんか、という誘い方をすれば参加しやすくなる。このことは、NPO、社会福祉協議会、PTAにも当てはまる。
- ・具体的にいつどこで何をするかというメニューが情報発信されないと模索している人に届かない。

### **(委員)**

- ・各団体は一所懸命活動していると思うが、団体に属さない方々が力を発揮出来ない。それについて、荒委員のパンフレットはインパクトがあるので、手直しするところや希望することもあると思うが、1、2ページの部分は必要だと思う。また、関谷副委員長の話していた3つの入り口や地域の誰でも、というのが、ただ住民というより、インパクトがあると思うので、アイキャッチという形で欲しい部分である。アイキャッチとした場合に、もうやっているという自信満々の方がいると思うので、更に地域をもっと良くしたいと思えるような形にしたい。夢と希望は大事だが、これを採用するならば要望として、地域の課題も入れ、「地域の誰でも」という部分を大きくして、ボランティアも入れてもらいたい。また、3、4ページで悩みや問題のところで、「何処にも属していないけれども、町会や行事等で、何か手伝いたい、参加したいけど、方法が無いんだよね」というようなものを付け加えてもらいたい。

### **(事務局)**

- ・各委員の方々から意見をいただいて、難しい宿題もあるが、事務的に進めなければならない。皆さんの意見を伺っていると、アイキャッチャーのあるパンフレットは、モデル事業を実施する地区の一般の皆さんに対して、スタートします、こういう仕組みがあなたの地区で始まりましたよ、ということで、是非参加してくださいという主旨で使う方が、モデル地区外の人に見せるより良いと思う。そういう意味でこれから時間をかけて、協力いただいて作り込みをしていった方が良いのかなと思う。

### **(副委員長)**

- ・情報発信の対象を段階的に限定することは、好ましくないと思う。つまり、全体像を常に示していかないと、この段階ではここだけを対象に、次の段階ではここだけとなると、全体像がどこにも共有されないということになりかねない。先程申し上げた主旨は、団体・一般・行政向けと、全体を射程に入れた形でこの情報を修正した方が、今後を考える時に良いと思う。

### **(委員)**

- ・各地域で、モデルにならなかった地区でも、このパンフレットを見て自分たちが関われば、更に良いまちづくりを出来るかもしれない、踏み出せるかもしれないという方々が出てくる可能性があるので、皆さんにお知らせした方が良いと思う。

### **(事務局)**

- ・この資料は明日使うので、議会だけは事務局で作成した資料を使用し、地区の発起4団体への説明時には、荒委員の案の修正版をという形でお願いしたい。議会説明は、予算に絡む説明なので事務的に行わせていただきたい。
- ・アイキャッチャーのあるパンフレットは、対象者を絞らずに皆さんの協力をいただきながら、作り込みをしたいと思う。

### **(副委員長)**

- ・3つ目の議題については、検討報告書に向けてということで、次回とその後の流れの話になるが、その前に、このパンフレットを含めて意見等あるか。

### **(委員)**



- ・何が必要なかではなく、こんなことが出来ます、こんなことが出来たら良いという内容を記載した方が良い。課題だけでなく夢と希望を持って、良い街にしたいと思う方々が集まるようなパンフレットにしてもらいたい。荒委員の案の図は、各団体や文言の配置のバランス等が考えられていて、誰が見てもおかしくないように配慮して作成されており、気付かなかったもの等も記載されているので、よく出来ていると思う。
- ・また、町会・自治会に加入しない理由はいろいろとあると思うが、子育てをして社会と子供が繋がっていると入りやすいが、世帯をみると独居の方が多いの現状だからではないかと思う。自分の得意な専門性を活かして地域に貢献したいという話もあるのでそのような人も来られるような状況したい。

### **(事務局)**

- ・このパンフレットはコミュニティ推進協議会の設立までに携わる人向けになっており、中の文体についても設立に向けた情報提供になっている。仕組みに参加する一般の人向けのパンフレットについては、変更点が出てくるので検討しなければならない。

### **(委員)**

- ・このパンフレットで強調してもらいたいのは、この仕組みが出来ることによって、自分が参加した場合に、自分の意見がこのように反映されて活かされていくという道筋が分かる、また、このようにまちづくりが変わるといことが分かるようなものにしてもらいたい。

### **(事務局)**

- ・読み手の立場になって、情報や文体、発信する内容について、変更していくように検討したい。

### **(部長)**

- ・確かに、最初の資料は説明書になっているので夢が無い。団体に属すると大変だが、自分の出来る範囲内でなら協力したいと思っている方々への道筋を示すようなものを考えなくてはならないと思う。

### **(副委員長)**

- ・一人一人の立場に響くような情報にならないと、自分のものとして受け止めてもらえない。また、団体に属さない方々に響けば、そこから関心を持ってもらい、団体に加わってもらえ

るという流れが出来て、開かれていくと思う。

**(副委員長)**

- ・どのように表現し発信していくかについては、来月の会議までに意見を募りながら修正を加えるということで、確認しておいていただきたい。

**3 最終報告書「地域の仕組みづくり検討報告書」の作成に向けて**

**(副委員長)**

- ・それでは、3つ目の議題、最終報告書「地域の仕組みづくり検討報告書」の作成に向けてについて、事務局から説明を求める。

**(事務局)**

- ・「3 最終報告書「地域の仕組みづくり検討報告書について」説明する。(以下、説明資料の項目)

はじめに

- I 地域の仕組みづくりを進める意義と視点
  - 1 「住民本位」から「住民主体」の行政へのシフトチェンジ
  - 2 「住民主体の行政」と自治体内分権
  - 3 地域のしくみづくりの基本的視点と当面の対応
- II 松戸版地域の仕組みづくりの考え方
  - 1 留意事項
  - 2 本市が取り組んできた協働のまちづくりとの整合
  - 3 地域活動の課題の解決
  - 4 松戸版地域の仕組みづくりの目標設定
- III 松戸版地域の仕組みの提案（平成25年度モデル試行事業）
  - 1 仕組みの概要
  - 2 実施手順とスケジュール
- IV 今後の進め方に関する提言

**(副委員長)**

- ・本来であれば、一貫して日高委員長に作成して頂いた方が良いとは思いますが、皆さんから異論が無ければ執筆したいと思う。中身については、本日議論で出た内容をイメージしており、

報告書と言っても、基本的には、市長をはじめ行政関係、議会関係、地域で活動している団体関係、一般の市民の方々等を射程に入れた上で、この仕組みの意義を触れ、これによってどのようなことが出来るのか、そのためには、今あるそれぞれの問題はこういうことがあるが、このように解決することが出来ます等のように、具体的には、このような裾野が開かれますというような内容で、前向きなイメージをもてるようなものが書ければと思っている。絶対にこれは盛り込んでもらいたいという事があれば、提案してもらいたい。

### **(事務局)**

- ・日高委員長が関谷副委員長に執筆をお願いするとの話の中で、前段として行ってきたパートナーシップ検討委員会の課題の整理があり、今後、町会・自治会の課題についての地域コミュニティ作りの中では重要な部分なので、両方の委員会の内容を踏まえて作成してもらいたいとのことであった。

### **(副委員長)**

- ・パートナーシップ検討委員会で、市政協力委員・地区長の方々と議論を重ねてきた。いろいろな現状が検討されて、いろいろな論点が出されたが、そこで議論されたこととこの取り組みが、どのような関わり、接点を持ってくるのかを表現出来ればと思う。
- ・文章全体の検討報告書の目次等を見て、骨格としてはこれでよろしいか。特に異論が無ければ、このような骨格を基に私の文章を加え、本日出た意見も反映させたものを、次回の委員会で最終的に確認していただくということによろしいか。

### **(部長)**

- ・行政側としては、これから地域の輪を広げ、市との協働を目指していくことになるが、市側として議会に説明していく。議会から見た地域の仕組みの姿は、違う角度から見ているのでどのようになるか分からないが、今後説得していく。役割分担としては、議会があって、地域の仕組みがあって、行政があって、それぞれどこを目指すのか、その見える姿、あるべき姿をこれから示していく。
- ・地域担当職員については、本業との兼務職員になることなどがあるので、全庁的に合意形成を図る必要がある。行政としても地域の仕組みが出来たことによって、より大変になっただけでメリットがないということではなく、この制度を導入したら地域との連携等により、このようなメリットがある、やり易くなるということ等を示していく必要がある。

**(副委員長)**

- ・それぞれで検討して、地域の仕組みの出来る環境を整えていかなければならないと思うが、そのような方向を促せるような報告書にしたい。

**3 その他**

**(副委員長)**

- ・その他連絡事項について、事務局の説明を求める。

**(事務局)**

- ・次回の地域のしくみづくり検討・検証委員会は、平成25年3月21日（木）15時から17時までとなっているので、出席願いたい。

**4 閉会**

**(副委員長)**

- ・平成24年度地域のしくみづくり検討・検証委員会の第2回会議を閉会とする。